

Course number		U-LAS06 20010 LJ41					
Course title (and course title in English)		刑事裁判入門 Introduction to Criminal Procedure		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Law Professor,MATSUMOTO,Yoshiki	
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Jurisprudence, Politics and Economics(Issues)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	
				Number of credits		2	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)	
				Year/semesters		2025・Second semester	
Days and periods		Tue.2		Target year		All students	
				Eligible students		For all majors	
[Overview and purpose of the course]							
新聞、テレビ等で日々報じられる犯罪捜査や刑事裁判に関する最新の話題にも言及しつつ、刑事訴訟手続の概要を説明する。							
[Course objectives]							
我が国における犯罪捜査、刑事裁判に関する手続を正しく理解し、関心を高めることを目標とする。							
[Course schedule and contents)]							
<p>犯罪捜査や刑事裁判に対する興味、関心を高めるため、報道されたこれらに関連する最新の話題や裁判例を取り上げて説明するとともに、刑事訴訟手続における基本的事項である以下のテーマとそれに関連する事例について、受講者自身による報告・討論をも交えた授業を予定している。1から6の各テーマについて、それぞれ2、3週の授業を予定している。授業回数はフィードバックを含め全15回とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 裁判制度総論 法と裁判、現代の司法制度、民事裁判と刑事裁判など 刑事訴訟手続の概要 刑事実体法と刑事手続法 刑事訴訟手続の目的 刑事手続の流れ 刑事訴訟手続における登場人物 捜査 捜査とは 捜査機関 捜査の端緒 捜査の方法・実行 被疑者を対象とする捜査（逮捕・勾留，取調べ） 検察官による事件処理 公訴・公判 公訴提起，訴因と公訴事実 公判手続の基本原則 公判準備と公判期日における手続の概要 事実認定 							
----- Continue to 刑事裁判入門(2) -----							

刑事裁判入門(2)

証拠裁判主義（証明の方式・程度・対象，証拠能力）

事実認定の方法

伝聞法則

自白法則

6 裁判員制度

国民の司法参加、裁判員制度の仕組み，裁判員の役割など

オンライン（ライブ）での双方向授業を実施する。PandAにプラグインされたZoom機能の利用によるストリーミング方式で行う。担当教員が予め講義用にZoomミーティングを予約、PandAを経由して履修登録者を招待するので、招待を受諾して参加する。画面に表示する名前は、必ず自己の氏名（漢字）とする。学生側のマイクは、通常はミュートの状態にしておき、教員から指名されて発言する場合のみオンにする。回線トラブル等により音声を受信できなくなった場合は、担当教員宛にメールで授業中又は授業後速やかに連絡することとし、その場合は出席扱いとし、当日の授業の録音を後日配信する。

オンライン授業を実施するには、音声・動画の受信・送信が可能なインターネット環境にあることが前提になる。

1 機器

音声・動画の受信・送信が可能なPC、タブレット、スマートフォンのいずれかを保有していること

マイク機能・カメラ機能を利用可能な機器を保有していること（PC等に内蔵または外付け備品のいずれでもよい）

2 インターネット環境

授業でZoomを用いる場合、以下の条件を備えておくことが必要である。

データ容量 月35GB以上（1コマ1GB弱×週8コマを想定）

通信速度 安定した通信速度が必要（下り1.2Mbps / 上り600kbps）

データ容量に制約があることも考えられるので、音声配信を原則として、ビデオをオンにすることはなるべく控えるなど、通信量を抑える工夫をしていきたい。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

【評価方法】

平常点（10点、授業の中での積極的な姿勢）、小レポート（2回、各30点、問題点の把握・分析力、論理的な理解力、表現力等を評価の視点とする。）、小テスト（30点、到達目標の達成度等により評価。授業時に出题、定期試験は実施しない。）により成績評価を行う。

小レポート、小テストは、PandAの課題ツールを用いて、出题、提出を行う。

なお、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。出欠確認は、Zoomのログ（参加者氏名・入退室時刻を記録）及び質問に対する応答状況によって行うので、必ず自己の氏名で参加すること。

【評価基準】＊平成26年度以前のカリキュラムの適用学生

到達目標について以下の評価基準に基づき評価する。

80～100点：目標を十分に達成しており、優れている。

70～79点：目標について標準的な達成度を示している。

Continue to 刑事裁判入門(3)

刑事裁判入門(3)

60～69点：目標につき最低限の水準を満たすにとどまる。

0～59点：目標について最低限の水準を満たしておらず、さらに学習が必要である。

【評価基準】＊平成27年度以降のカリキュラムの適用学生

到達目標について以下の評価基準に基づき評価する。

96～100点：目標を十分に達成しており、とくに優れている。

85～95点：目標を十分に達成しており、優れている。

75～84点：目標について良好な達成度を示している。

65～74点：目標について標準的な達成度を示している。

60～64点：目標につき最低限の水準を満たすにとどまる。

0～59点：目標について最低限の水準を満たしておらず、さらに学習が必要である。

[Textbooks]

Not used

教科書ということではないが、法律科目であるから「六法」は必携である。デイリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）など。

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

授業のレジュメその他参考資料は、KULASISの授業資料に適宜掲載する。

[Study outside of class (preparation and review)]

授業前に予習し、復習すること。そのほか、授業中にその都度指示する。

[Other information (office hours, etc.)]

授業中、分からないことがあれば、積極的に質問することを期待する。

学生から担当教員に対して行う連絡（質問等）は、担当教員のメールアドレスyoshiki@law.kyoto-u.ac.jp宛にメールを送信して行う。

担当教員から学生に連絡を取る必要が生じた場合には、KULASISの授業連絡メール（一括・個別）を利用して行う。

[Courses delivered by instructors with practical work experience]

(1) Category

A course with practical content delivered by instructors with practical work experience

(2) Details of instructors' practical work experience related to the course

(3) Details of practical classes delivered based on instructors' practical work experience

[Essential courses]